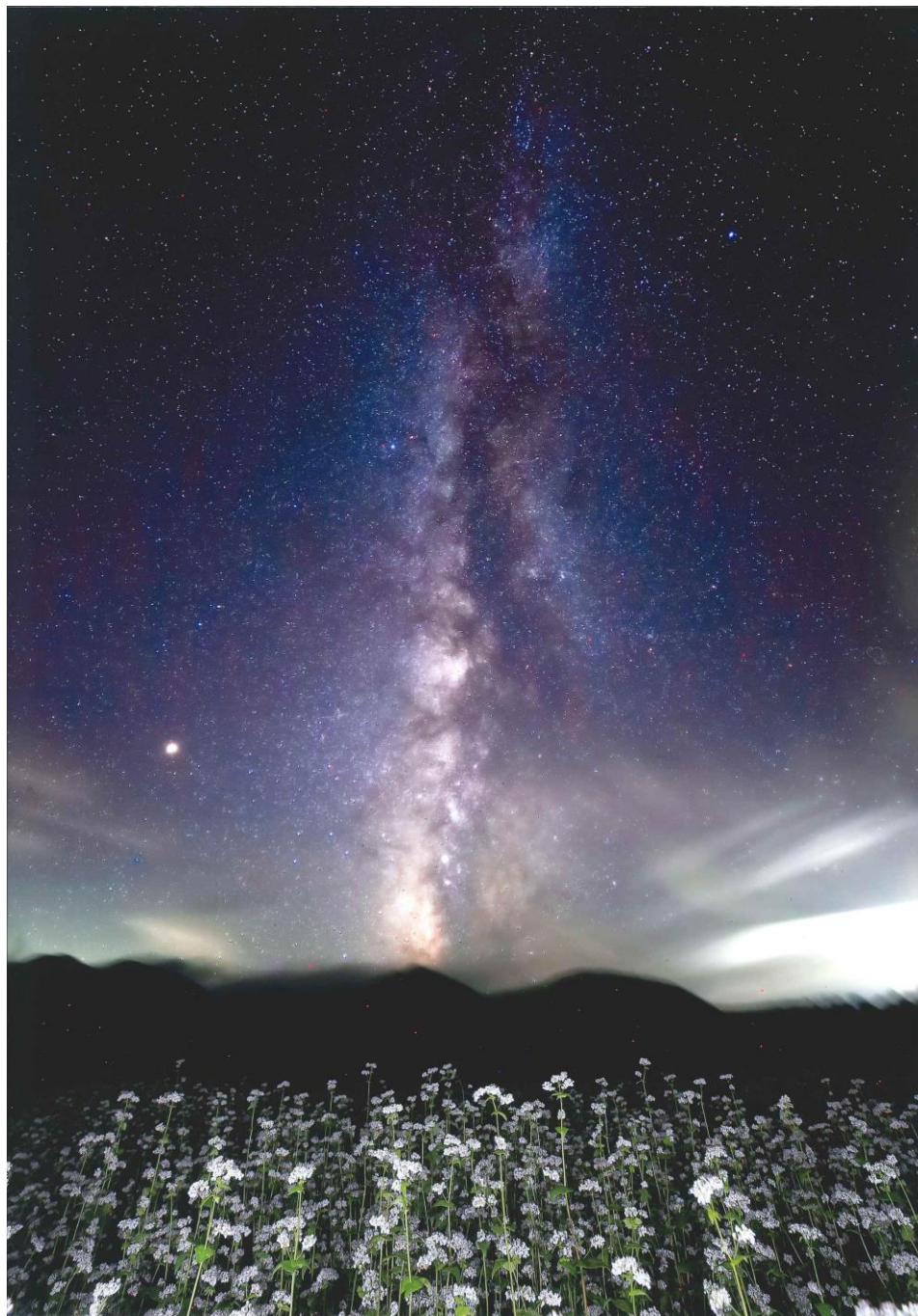


星景写真コンテスト入賞作品目録



一席

「立ち昇る銀河」

佐山 勝信さん

(福島県)

白いツバの花畑から立ち上る夏の天の川。中景は黒々とした山並み。早秋の雰囲気が伝わります。仕上げも手慣れたもの、見事です。

※掲載した作品は、印刷時に作品本来の質が損なわれております。ご了承ください。

※入賞作品は、鳥取さじアストロパーク公式ホームページにも掲載しています。

第25回鳥取市さじアストロパーク星景写真コンテスト

- ☆主 催☆ 鳥取市さじアストロパーク
- ☆協 力☆ 写友会カプリシャス、鳥取天文協会
- ☆協 賛☆ (有)中央光学、テレスコープセンターアイベル、天文ハウスTOMITA、(株)中井脩、(株)ビクセン、三鷹光器(株)
- ☆後 援☆ AstroArts/月刊星ナビ、(株)さじ式拾壺
- ☆応募結果☆ 93点(45名)
- ☆審 査☆ 委員長/佐治天文台台長・香西洋樹
委員/鳥取市さじアストロパーク所長、ほか

審査委員長 香西洋樹(佐治天文台長)

佐治天文台は、今年(2019年)で開設以来満25年を迎えます。昨年度から、鳥取県が県の愛称を“星取県”と決め、国内に大々的にアピールし、写真も公募いたしました。そして、山崎直子宇宙飛行士を招き「星空保全条例制定1周年」を記念したイベントなどが実施されました。アストロパークでは当初から継続して来たこのコンテストを、前回までと同様「星のある風景」をモチーフにした「星景写真」を全国的に募集をおこないました。その結果、北海道から四国・九州に渡る全国各地の45人により93点の作品が寄せられました。今回は昨年と比べ応募総数が幾分減少していますが、これは全国的に天候が不順だった事の現れだろうと思われま

す。応募頂いた方々の年齢は、前回と同様に20歳代の方から70歳以上の高齢の方までに亘り、特に中年の方々の応募数が増しました。何かと多忙な中年の方々。寸暇を見つけて家族共々に親しむ夜空の星々。今後の活躍が期待されそうです。これは星空、言い換えると人と宇宙についての関心が広がり、そして深まったことを示しているのではないかと思います。

今回、応募された作品を拝見するとき、作者自身の自然観、さらに人生観などを感じさせられます。若年の人は新鮮な眼差しで、中年の方には勢いを感じ、高齢者は成熟した瞳で見つめ、人と宇宙の関わりを表現しました。また、撮影の場所についても、撮影のための遠征に加え自宅付近、さらに故郷の星空を改めて見上げる姿勢が見られることは大変好ましいことと感じます。評者は、以前から居住地の、言い換えると生活の拠点の星空を大切にしたいものと語り続けてきました。すなわち、都会には都会の、また、田園地帯には豊富な自然の星空があります。つまり、星空は撮影地の環境を示す指標なのです。

入選作品については個々に選評を書くことにいたしますが、全応募作品が作者自身で納得し、厳選された上での応募であることは言うまでもないこと、その事実は作品を審査する過程において如実に感じました。一方、作者の作品に対する強い愛着心から、不要とも思われる部分が残ったり、また星と風景のどちらが主役なのか判り難い作品もあり、これ等がかえって作品の印象を弱める結果を招いている作品もあり残念でした。デジタルカメラとパソコンによる画像処理、さらに高画質プリンターの普及により、天体を含むテーマがより身近になったことは素晴らしいことに違いありません。しかし、あくまでも自然が対象です。目で見て好感が持てる作品が何よりです。行き過ぎた処理には問題が残ります。

応募作品を拝見し、回を重ねるごとに完成度の高い作品が多くなってきたことを強く感じ、さらにこれまでの応募者に加えて、初応募の方や若い愛好者が増加したことも大きな喜びでした。写真が手軽に撮影でき身近になってきた一方で、天体を含む自然に対して関心が低下してきていると危惧する声も聞かれます。星空と我々人間の関係は、永遠に変わることのない伴侶であります。何時までも皆様と共有していきたいものです。特に最近頻発する自然災害。これも地球誕生以来繰り返されてきた自然現象で、早い復興を心から願い、その被災地の上にも太古からの変わらぬ星空があることを心に留めて置くことも大切なのではないのでしょうか。

最後に、このコンテストを催すにあたり、多くの方々にご協賛・ご後援をいただきました。主催者として、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

二席「冬の桜」

西澤 政芳さん(北海道)

十勝川河畔のはるにれの樹だそうです。河霧によってあたたかも満開になった桜を思わせます。マイナス20℃の作る世界。上空からはオリオン、すばるが見下ろします。左下隅の光が人のあることを教えます。



三席 「棚田に注ぐ」
楠本 毅さん(香川県)



田植え前の夜の水田。写真の題材に良く見られる日本の原風景とでも言いましょうか。散見される人家の明りが人との深いかかわりを示します。南国高知の初夏、北天の星の軌跡が時の流れを教えます。

三席 「街の明かりが消えた夜」
岡田 泰秀さん(北海道)



北海道胆振地方の地震の日、美瑛町に居た作者。ふと見上げた夜空には多くの星たち。不気味にさえ感じたでしょう。エネルギーを消費しながら生活を楽しむ人たちへの警鐘かも知れませんね。人家の屋根すれすれにいて座の南斗。緯度の高さを教えます。

特別賞



「元旦の大山」 加川 清三郎さん(鳥取県)



「想いよ鐘よ天まで届け！」
尾形 雅信さん(三重県)



「早暁の火星・月・水星」
福本 整さん(奈良県)



「天星絵巻」 池谷 美弥子さん（鳥取県）



「空に撒く銀の砂」 小野 扶未さん（神奈川県）

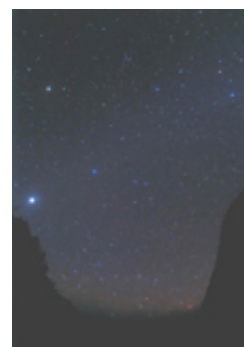
佳作



「夜明けの浄土ヶ浜」
木村 洋介さん（宮城県）



「この銀河の片隅で」
市川 尊之さん（広島県）



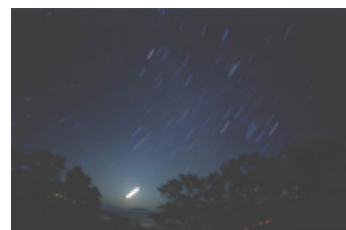
「るつぼの中の南十字」
八木谷 祐一さん（鳥取県）



「本州最南端の夜」
中谷 一郎さん（兵庫県）



「シリウス鉄道橋」
島村 直幸さん（福岡県）



「オリオン上昇中」
高橋 米子さん（北海道）

星取県賞



「砂丘を瞬く七星」
山本 美佐子さん（鳥取県）



「田舎の一夜」
岸本 健さん（鳥取県）

鳥取市さじアストロパーク

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1 TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103

<http://blog.zige.jp/saji-astro/> e-mail sj-astro@city.tottori.lg.jp